

離島・へき地実習を終えて 上甕コース

今回の実習で私は上甕を訪れた。昨年は南薩コースと本土であったため、離島と本土の医療にどのような隔たりがあるのかを中心に学ぶことができた。1.2日目は、里診療所で、3.4日目は上甕診療所で実習を行わせていただいたのだが、双方の診療所の担う役割など、同じ島内でも異なる部分があった。里診療所にはCTがあり、詳しい検査を必要とする患者は里診療所へ、また上甕診療所には16床の入院設備が存在するため、怪我などで入院の必要のある患者は上甕診療所を紹介される、といった風に上手く役割分担がなされていた。

また、上甕島では年々人口の減少と高齢化が進んでおり、診療所まで行くことのできない患者も増えている。そのため、在宅医療も必須となっていた。どちらの診療所も、細い道を車で通り、患者さんの元へと向かっていた。また、大きな高齢者入所施設では、二つの診療所で分担して、曜日ごとに回診を行っており、ここでも互いの協力関係が垣間見えた。先生方が患者さんの元を訪れるたび、どの方も笑顔で迎えてくださっていたのが印象的であった。

二つの診療所での実習の内容について、里診療所では見学が主であり、まだ医学的知識の浅い私たちに対して医学的な知識よりも今は地域の雰囲気や、患者さんとのコミュニケーションを大切にしてもらいたい、と鈴木先生はおっしゃってくださいました。上甕診療所では対照的に、堀川先生の指導の下、実際に患者さんのバイタルを測ったり、電子カルテの書き方を教わったりと、実践的に患者さんと触れ合う機会を設けていただいた。どちらの先生も患者さんに対して目線を合わせ、とても真摯に接しておられて、きちんとした信頼関係が気づかれているように感じられた。

上甕島は高速船、フェリーで本土と結ばれてはいるものの、コンビニはなく、娯楽施設も島唯一のパチンコ店が存在するのみと、本土に比べて不便を感じる部分も多かったが、その分島民の方々の交流は非常に深く、毎日診療所に通って他の方と話すのを楽しみにしている患者さんもいた。こうしたつながりが、独居の高齢者の孤独死などを未然に防いでいるのだと感じた。また、地域診断実習で訪れた各所も、島独特の地形であり、非常に雄大な景色を見ることができた。あと2~3年ほどで中甕島と下甕島をつなぐ橋が完成するという。その際には、どのように医療圏が再編されるのか、今後の課題となることだった。

短歌

身を削り 車も削り 往く夏路 鉄は錆びれど 鉄心錆びず

往診の最中、非常に狭い道を先生が運転されている最中に曲がり角を曲がり切れず塀で車検から帰ってきたばかりの車を擦ってしまい、大きく傷がついてしまいました。上甕島では、板金塗装ができないためそこから車体が錆びていってしまうらしいのですが、それにもめげず往診を続ける先生の姿が印象的で、この短歌を詠ませてくださいました。

事後レポート

今回の離島実習では上甕に行かせていただきました。朝6時35分、中央駅発のJRに乗って川内駅まで行き、1日2便の高速船に乗って川内港から50分間波に揺られ、上甕里港へと到着しました。里診療所は港から近くにあり、着いてすぐに外来見学をしました。午後は往診にも同行させていただき、CT画像検査も見させていただきました。夜は里診療所の方との懇親会もあり、様々なお話をすることができました。2日目は、午前中に胃カメラを見させていただき、手元を見ずに左手で操作する姿は、まるで魔術師のようで、その器用さに驚きました。午後は往診の後、里町の案内をしていただきました。上甕は緑も豊かであることを初めて知りました。海が綺麗であることは有名ですが、「豊かな森林のつくる栄養があってこそ上甕の澄んだ海がある」という現地の方の言葉はとても心に響きました。3日目は、上甕診療所に実習に行かせていただきました。同じ上甕に存在しながらも、雰囲気や特徴、役割が異なる病院でした。バイタルチェックや電子カルテを体験させていただき、たくさんの初めての経験は非常に貴重なものとなりました。夜は、上甕診療所の方との懇親会があり、離島の魅力をたくさん教えていただきました。4日目は、午前中に病棟を訪問し、バイタルと聴診をさせていただきました。聴診は自分の緊張の拍動なのか、患者さんの心音なのかわからないくらいに、緊張しました。午後は上甕町の案内をしていただき、上甕の雄大な自然を肌身に感じることができました。4日間の離島実習で離島医療の厳しい現状を初めて自分の目で目の当たりにしました。そんな中でも、島の住民と島で働く人の温かい心に触れ、離島の良さもたくさん見つけることができました。今までも病院実習は行ったことはありましたが、総合医の仕事を見させていただいたのは初めてでした。実際に私たちが将来する仕事は、総合医に近いものだと思うので、非常に参考になり、漠然としていた自分の将来像をイメージすることができ、離島実習に行って良かったなと心から思いました。本当に貴重な体験をありがとうございました。

上甕 時を忘るる 風の里

(背景) 今回訪れた上甕島は、潮の香りの漂う雄大な自然に囲まれた島であり、時の流れを忘れてしまうほどの上甕島ののどかさを詠みました。